

## 2018 年度教職研究科 F D 活動「年間まとめ」

### ①1 年間の取組内容

- 春・秋セメスターごとに授業評価アンケート（「授業内容について」「授業の進め方について」「受講生の取組について」という3観点から14項目）を実施し、結果の分析、各教員からの総括、次年度の改善点等を話し合った。
- 完成年度を迎え、研究科アンケートを M1、2 ともに実施した。M1 は「教育課程について」「授業について」「学生支援について」「全体を通して」という4観点から19項目、M2 はそれに「実践探究論文」という観点を加えて5観点から23項目について問うた。
- 他の教職大学院への調査を実施した。調査項目と対象大学院は、「国際的な視野を育成する研修プログラムの開発」（岩手大学）、「実践的指導力の向上を図る教職大学院カリキュラム開発のための基礎的調査」（山梨大学、福岡教育大学）である。調査項目にととまらず他大学院の教学内容について、教員連絡会議において共有した。
- 春・秋セメスターに授業公開週間（6/11～15・11/12～16）を設け、教員相互の授業参観を実施した。最低1回は授業を見学することを義務づけた。授業担当者と参観者は「授業公開実施報告書（様式A・B）」を書き、各自の授業を振り返った。また、この期間は学部生や外部の参観も可能にしてアンケートによって授業を評価してもらった。
- カリキュラムのあり方を検討する材料とするために、院生に「学びのポートフォリオ」を春・秋セメスターごとに実施した。

### ②取組の中で明らかになった成果と課題

#### ○授業アンケート

アンケート結果の分析は、以下の通りである。

- ・「授業内容について」は、「やや不満であった」「不満であった」「無回答」という回答が約14%という結果であった。特に課題があると思われる設問は、理論と実践のバランスへの配慮と授業の体系性に関するもので否定的な回答が約12%であった。昨年度より厳しい結果となった。
- ・「授業の進め方について」も昨年度より厳しい結果であった。昨年度高評価であった教員の説明のわかりやすさも、否定的な回答が12%近くあった。TTの有効性についても否定的な回答が30%近くあった。さらに、授業の満足度も昨年より低かった。
- ・「受講生の取組について」も昨年度より評価が低かった。特に課題となるのは、授業外の学習時間が少ないことと、授業に関連する文献を読むことをしていない学生が昨年度の30%より増えて40%程度いることである。本年度受講生は、自らの取組が芳しくない反面、授業に対する評価は厳しい結果であった。

#### ○研究科アンケート

〈全体の傾向〉

M1より修了生の方がほとんどの項目で評価が高い。また、現職院生と学部新卒院生を比較すると現職院生の評価が高かった。項目別にみると、実習支援体制と教員採用試験支援体制の評価に課題がある。

〈修了生〉

「教育課程について」「授業について」「全体を通して」「実践探究論文」は概ね良好であった。「学生支援について」は、図書館の書籍雑誌の整備、就職支援や実習支援、連絡体制に関して適切でなかったと指摘する者がいた。今後の充実させる必要がある。

〈M1〉

- ・「教育課程について」は、フィールドワークの回数が少ない、時間割の編成が適切でないという回答が若干あった。その理由は、現職院生が参加できるフィールドワークの時間帯、学部新卒院生と現職院生の混成度合、教科の専門性を高める科目の不備が原因であると自由記述からわかった。
- ・「授業について」はゼミの指導について否定的な回答をした者が15%程度いた。ゼミを院生が選択できないことがこのような結果につながったと思われる。
- ・「学生支援について」、図書館の書籍雑誌の整備、就職支援や実習支援、連絡体制に関して適切でなかったと指摘する者がいた。
- ・知り合いに本研究科の入学を薦めるかという問いに否定的な回答をした院生が10%程度いた。修了時点での変化をみる必要がある。

○他の教職大学院への調査

各教職大学院が地域や状況などに応じてさまざまな努力を行っていることがわかった。とりわけ国立大学の教職研究科から教職大学院への全面移行の動きが早いことが明らかになった。本学が、私立大学の特色を出し、魅力的な大学院にしていくために何ができるか検討する必要がある。

○授業参観

年間1回以上の参観を義務づけているが、多忙のため授業参観を行えない教員がいた。授業アンケートの結果も昨年に引き続き「理論と実践のバランス」「授業の体系的」「主体的な学びを促す工夫」「授業における課題のあり方や発展的な学習」などに課題がある。積極的に他の教員の授業に学び、授業改善を図るようにしたい。

○「学びのポートフォリオ」

「学びのポートフォリオ」は、院生の振り返りの機会を提供するだけでなく、各ゼミの担当教員がこれを様々な形で活用して教育効果を上げることを期待している。各ゼミ担当教員が活用できるように働きかけるようにしたい。

③次年度の取組内容

- ・外部評価委員の意見を反映したFD活動
- ・「学びのポートフォリオ」の活用